

昭和四十七年九月招集

第三回館山市議定会定例会会議録第五号

館山市議 会







# 目次

日 時	一
場 所	一
出 席 議 員	一
欠 席 議 員	一
出 席 説 明 員	一
出 席 事 務 局 職 員	一
議 事 日 程	一
開 議	二
認 定 第 一 号 認 定 第 七 号	二
議 案 第 六 十 六 号	七
議 案 第 六 十 七 号	二四
閉 会	二八
本 日 の 会 議 に 付 し た 事 件	二八

一、昭和四十七年九月二十五日（月曜日） 午前十時  
 二、館山市役所議場  
 三、出席議員 二十八名

一 番	吉 田 勇 治 郎	二 番	林 豊
三 番	流 山 源 次 郎	四 番	鈴 木 稔
五 番	近 藤 好 雄	六 番	栗 原 一 雄
七 番	渡 辺 昭 夫	八 番	石 井 武 敏
九 番	辻 田 実	〇 番	渡 辺 軍 治 郎
一 番	山 本 昇	一 番	藤 田 益 治
二 番	五十嵐 昇	二 番	伊 賀 多 朗
三 番	和 田 一 郎	三 番	伊 賀 多 朗
四 番	宮 野 敏 朗	四 番	辻 井 謹 爾
五 番	宮 野 敏 朗	五 番	安 西 益 男
六 番	島 野 茂 樹 郎	六 番	君 塚 喜 三
七 番	鈴 木 市 蔵	七 番	田 村 源 治 郎
八 番	鈴 木 市 蔵	八 番	田 村 真 次
九 番	菊 井 敏 博	九 番	西 村 真 次
一 〇 番	安 沢 徳 順	一 〇 番	田 中 禄 郎
一 一 番	秋 山 六 三 郎	一 一 番	遠 山 日 木 子
一 二 番	飯 田 義 男	一 二 番	望 月 照 正

一、出席説明員  
 第一号に同じ

一、出席事務局職員  
 第一号に同じ

一、議事日程（第五号）

昭和四十七年九月二十五日午前十時開議



開 議 午前十時二分開議

○議長（吉田勇治郎君） 本日の出席議員数二十六名、これより第三回市議会定例会第五日の会議を開会いたします。

暫時休憩いたします。直ちに全員協議会を開催いたしますので議員控室にご参集下さい。

午前十時三分 休 憩  
午後一時五分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十六名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議 案 の 配 付

○議長（吉田勇治郎君） 議案を配付いたします。議案の配付もれはございませんか。― 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はおもとに配付の日程表により行ないます。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第一、認定第一号乃至第七号昭和四十六年度一般会計並びに特別会計決算を一括して議題といたします。

認定第一号 昭和四十六年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十六年度館山市簡易水道事業特別会計歳入

認定第一号 昭和四十六年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について

認定第二号 昭和四十六年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第三号 昭和四十六年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号 昭和四十六年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について  
昭和四十六年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号 昭和四十六年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号 昭和四十六年度館山市西部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

決算審査特別委員会委員長報告

日程第二 議案第六十六号 昭和四十七年度館山市一般会計補正予算（第五号）

日程第三 議案第六十七号 館山市教育委員会委員の任命について



認定第四号

歳出決算の認定について  
昭和四十六年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号

昭和四十六年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号

昭和四十六年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号

昭和四十六年度館山市西部簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

決算審査特別委員会委員長報告

○議長（吉田勇治郎君） 本決算は共に、去る九月十三日に特別委員会を設置し付議されたものであります。

よって、これより本決算に対し、決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長のご報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長、田村源治郎君ご登壇願います。

（二二番議員田村源治郎君登壇）

○二二番（田村源治郎君） 決算審査特別委員会におきます認定第一号乃至第七号にかかる審査の経過並びに結果についてご報告申し上げます。

去る十三日開会の本会議におきまして、本委員会に付託となりました認定第一号乃至第七号、昭和四十六年度館山市一般会計並びに特別会計決算につき、十八日委員会を招集し、各会計における決算を慎重に審査を行いました。

まず、各会計決算総体におきます収支の状況は、一般会計にお

いては、歳入総額二十二億三千八百四十八万三千五百七十一円に対し、歳出総額二十二億三千五百九十二万八千九百三十四円であり、実質収支額は二百五十五万四千六百六十八円の繰り越しとなっております。

特別会計については、国民健康保険特別会計ほか五会計において、歳入総額六億七千三百六十七万二千元に対し、歳出総額六億六千八百四十九万八千七百七十五円であり、西部簡易水道会計をはじめとして、一般会計からの繰入金が含まれているとはいえず、実質収支額五百十萬九千五百七十四円の繰り越しとなっております。市当局の努力に対し敬意を表するところであります。

申し上げるまでもなく、各会計における計数につきましては、決算審査意見書によりまして、適正である旨、認められておりますし、その執行状況についても、いろいろ指摘されておるところではあります。本委員会は、審査にあたりまして、市長をはじめ、関係課長より詳細なる説明を聴取し、特に議会の予算審議権尊重の観点より、予算が議決の趣旨にそって、効率的に執行されておるかどうかを重点といたしまして審査を行いました。

審査の過程におきまして、本会議、各種委員会で論議された事項等について、市当局の考えをただし、あるいは処理状況についての報告を求め、今後の行政運営にあたって検討を加える点、改善すべき事項等を指摘、要望いたしました次第でございます。

以下、質疑応答等整理いたしまして、そのおもなる事項をご報告申し上げます。

まず、一般会計歳出におきまして、

一、広域市町村圏による不燃物処理施設整備事業負担金三百三十



万余円支出されておりますが、この施設が十分利用されていない面があるので、作業員の確保をはかる等により、効率的な運用について検討されたい。

一、災害罹災者見舞金制度については、消防の救急活動及び警察への事故報告等によって、対象者を把握されておることとありますが、なお、その調査にあたっては、万全を期せられ、漏れないよう市民への周知をはかられたい。

一、防犯灯設置については、防犯協力会、町内会、商店会等により設置されて参っておりますが、維持管理の点からも、これを一本化して実施できないか、今後の課題として研究されたい。

一、防災対策については、このたびの二十号台風により、その重性を痛感したが、応急の医薬品についても現在市役所に保管されておるに過ぎず、これを今後医師会病院等にも常備するよう、対策を講じられたい。

一、民生費中、身障者、精薄者援護対策が数多く計上されておる、福祉施策の充実を期せんとする当局の労を多とするところでありますが、さらに市内におけるこの実態把握に努力され、施設収容等についても、より積極的な姿勢をもって対処されたい。

一、し尿処理場建設に関連して、防空ごう跡を借用し、生し尿を投棄したことに伴い、依然として、その借料が支出されておりますが、十余年を経過した今日、なお、そのまま放置されております。

大地震等自然災害の発生が憂慮されておる現在、この処理について一日も早く対策を樹立し、問題の解消をはかられたい。

なお、当市におけるし尿処理場、ごみ処理場の状況は消化促進

剤の使用、作業時間の延長を余儀なくされ、処理能力は現時点で限界に達しておると考えられるので、広域市町村圏による新設計画の促進方を要望いたしました。

一、救急医療体制の確立は、今日の交通事情から現下の急務であり、市民の最も切望されておるところで、本会議においてももしばしば論議されておりますが、市当局においては、医師会病院等に補助金を支出されておることでもあり、市民がいつでも医者にかかれるよう、医師会との折衝を強力に推進され、この体制確立に積極的に取り組まれたい。

一、流用、不用額については、年々減少の傾向にあり、市当局の努力に対し敬意を表しますが、本会議においても指摘を受けておりますとおり議会の審議権の尊重のためまえからも、流用については、当然補正予算によって措置すべきと思われるものもありますので、さらに今後予算執行にあたり配慮されたい。

次に歳入におきまして、市税、使用料、手数料におきます収入未済額につきましては、出納閉鎖後、若干徴収されておるとはいえ、なお多額の未済額が計上されておりますので、あらゆる措置を尽くし、年度内徴収に努力されるときにも、個々の実情を十分調査し、適切な処理を要望いたしました。

次に国民健康保険特別会計におきまして、高齢者医療給付制度は、本会議においても論議されましたとおり、市独自の制度として、市民の高く評価されるところであります。四十六年度中途において、県の国保給付改善事業の一環として、補助金制度の新設に伴い、国保被保険者については、国保会計に組みかえされたことによって、当該市費負担分を一般会計から繰り入れ措置され



たことは、被保険者が比較的低所得者層であることから全面的に賛意を表したところであります。

ところで、四十七年度においては、受診率の増大、医療費の改定等により、国保税は前年に比し、約二八%の増嵩をきたし、高齢者医療給付金をも一部負担する状況にありますので、老人福祉の観点から、一般会計より高齢者医療給付相当分の繰り入れを強く要望いたしましたところ、議会の意思を尊重し検討の上対処いたしたい旨の回答を得た次第でございます。

以上、本委員会におきます審査の概要をご報告申し上げた次第であります。提案理由にも述べられております如く、時代の要請に基づく行政需要多用化の著しい中で、苦しい財政事情に当面しながらも教育、産業、観光の三本の柱を重点施策として、健全財政を堅持しつつ、住民福祉の充実等行政水準の向上をはかられたことを認めるものでありまして、市当局の努力に対し深甚なる敬意を表する次第でございます。

今後、市当局におかれましては、経費の節減と予算の合理的な執行に、一段の努力を傾注されるよう要望いたしました。

以上、本委員会は付託を受けました認定第一号乃至認定第七号昭和四十六年度一般会計及び特別会計各会計決算はいずれも認定すべきものと決しました。

ここに決算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について報告申し上げた次第でございます。

満場のご賛同をたまわれますようお願い申し上げます。(拍手)  
○議長(吉田勇治郎君) 以上で委員長報告を終ります。

本報告につき質疑を願います。御質疑ございませんか。――御

質疑なしと認めます。

## 計 論

○議長(吉田勇治郎君) これより討論を行ないます。

○一〇番(渡辺軍治郎君) 私は、昭和四十六年度一般会計歳入歳出決算の認定について反対の立場から討論を行ないます。

まず、歳出についてですが、市長交際費二十万円、市交際費六十五万八千九百八十二円を予算額より減じていますが、これはむだ使いをやめて市民のために有効に使えという日本共産党の主張にそったものとして評価したいと思います。しかし、議長交際費については、他市から視察にくる議員の接待費にほとんど使われていると聞いておりますが、儀礼的な悪例はやめて節約するよう主張いたします。

第二点といたしまして、食糧費については予算額より四十二万七千三十九円の減になっておりますが、議会食糧費は増額されております。常勤職員が手弁当で勤務しているのに、非常勤の議員が弁当代を自弁しないという特権は許されないと考えます。まず議員から模範を示し、会議員食糧費は全廃するよう主張します。

次に、町内会長に対する行政事務委託料三百七十三万二千二百五十円の支出についてですが、市の行政を徹底させるために最大の効果をあげているといっているとおり、町内会長に財政的なひもをつけて行政の手先に利用していることは明白であります。対等の立場で了解のもとにやっているとはいえ、最近では自主的、民主的な組織である町内会を市の寄付金集めの道具に使い、戦前と同じような上意下達の機関にしています。これは地方財政法第二



十七条四の「市町村は、法令の規定に基づき当該市町村の負担に属するものとされている経費で政令に定めるものについて、住民に対し、直接であると間接であるとを問わず、その負担を転嫁してはならない。」という規定に違反しております。

また、報償金として、納税組合に市税、国民年金、国保税等一千二百二十二万六千四百十円を支出しておりますが、これも徴税事務を住民に転嫁するものであって、地方財政法第二十七条の四に違反するものです。これらの反民主的な行政を改め、その経費は市民のために有効に使うように主張いたします。

次は、三芳水道企業団の負担金四千九百万円についてですが、その負担率は企業団発足当時の七、二、一という割合になっておりますが、その後水道利用者の戸数も変化し、現在では五、四、一の割合になっております。学校給食組合の負担率が生徒数の割合で定められているように、水道の場合も利用者の戸数という受益の限度によって負担率を定めるのが当然であります。特に、水道の場合は、房州水道や市営水道の利用者も負担するものですから、その負担率は合理的で納得のいくものでなければならぬと考えますので、改定されるよう主張します。

次に、県道舗装の負担金千三十四万五千五百円、館山港の負担金七百五十万円についてですが、これは地方財政法第九条の原則に違反しております。また同法第二十七条では、区域内の市町村を利するものについては、受益者の限度で一部負担を認めています。が、区域内の市町村で利益を受けない市町村は一つもないのですから、その例外はありません。なお道路や港湾を利用するものは当該市町村だけにとどまらない広域性をもってあります。

したがって、地方財政を圧迫するこの種の負担金はやめさせるよう主張いたします。

次に、農業委員会費は一千万近い超過負担になっておりますが農業委員会費だけでなく、国、県の委任事務に超過負担は地方財政を圧迫する最大のものになっておりますので、解消されるよう要求します。

次に、安房農高新築負担金四十三万八千円の支出は、地方財政法第二十七条の三の「都道府県は、当該都道府県立の高等学校の施設建築事業費について、住民に対し、直接であると間接であるとを問わず、その負担を転嫁してはならない。」という規定に違反しておりますので、承認できません。

次は、歳入についてですが、道路舗装の寄付金二千十一万一千五百一円、学校プールの寄付金千四百八十五万五千円の収入については、町内会や区長を通じて半強制的な割当寄付によって徴収されたもので、地方財政法第四条の五に違反しております。

市道の舗装や学校プールの建設は、地方財政法第二十七条の四からみても当然市の責任においてなさるべきもので、その財源を寄付金に求め、住民に負担を転嫁するのは誤りであり、またそれが、このような寄付金を予算に組むことはやめるよう要求します。

以上、八項目にわたって予算執行上の矛盾点を指摘しました。特に地方財政法に違反している点は、行政を改めるよう強く要求して、本決算の認定に反対するものであります。以上。

○六番（栗原一雄君） 館山市の昭和四十六年度決算については、審査特別委員長よりの報告により、私は財政規模から判断いたし



まして適切であると考えられますので賛成いたします。

なお、今後財政基盤の確立という考え方から申し上げますならば、事業面の拡大をはかるべく移転的経費、消費的経費の節減をさらに考慮していただくよう要望いたします。以上。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

## 採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決を行ないます。

採決にあたりましては分割採決をいたします。

まず、認定第一号昭和四十六年度一般会計決算についての採決は起立により行ないます。

認定第一号についての委員長の報告は認定すべきものとするものであります。

委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

### （賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数であります。よって昭和四十六年度一般会計決算は委員長の報告のとおり認定することに決しました。

ついで、認定第二号乃至第七号各特別会計決算を一括して起立により採決を行ないます。

認定第二号乃至第七号についての委員長の報告は認定すべきものであるとしますものであります。

委員長の報告のとおり認定することに賛成の諸君の起立を求

めます。

### （賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立全員であります。よって認定第二号乃至第七号の特別会計決算はいずれも委員長の報告のとおり認定することに決しました。

## 議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第二、議案第六十六号昭和四十七年度館山市一般会計補正予算第五号を議題といたします。

### （書記朗読）

議案第六十六号 昭和四十七年度館山市一般会計補正予算（第五号）

## 議 案 の 内 容 説 明

○市長（本間 譲君） 去る十五日から十六日にかけての豪雨に対する被害の復旧のために追加予算をお願いした次第でございますが、総額におきまして六百三十三千円でございますが、その内訳としましては、道路関係におきまして百八十七万円、橋梁関係につきましては二十六万三千円、河川関係につきましては三百九十万円でございます。

歳入といたしましては、百五十万円県よりの交付金、四百五十万三千円は自動車重量税を計上いたしましたわけでございます。合計におきまして六百三十三千円、こういうことでございますので、くわしいことにつきましては関係課長からお答え申し上げますと思いますが、追加議案として特に御検討をいただきたいと思いま



す。

## 質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終わりました。御質疑を願います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 全員協議会で質疑の中で明らかにしたわけですが、一つ今後の問題として質問したいと思うんですが、土木課長の説明では市の排水路、これは上と中央と下のほう、駅から下というふうに大体三つぐらいに分れておりますが、あの程度の三〇〇ミリ以上越えた豪雨の中では川の水位があがって水路を改良、直してもとうていこの排水はうまくいかないというようなら、そういう説明もありましたけれども、しかし今の排水路を整備すれば被害を最小限にとどめることができたいと思います。

したがって、これは三〇〇ミリ以下の降雨量でもかなり上のほうが床下浸水をする。多いときには床上浸水するというようなそういう状態が起きているわけですから、そういう排水路の整備についてこれはまた大雨でも降れば同じような被害が出るのが予想されますので、緊急を要する問題だと思ひます。そういう緊急性について、すぐやはり全員協議会で問題にされました、排水路は整備する必要があると思ひますが、そういう急いでやる考えでいるかどうか。市民の要望としては再びこういう被害が起らないように何とかしてもらいたいという要望が強いわけですが、したがって、ほかのことはさておいてもこの排水路の整備は早急にやってもらいたいという声が強いわけで、そういう点をどういうふうにお考えになっておられるのか。おうかがいしたいと思ひます。

○土木課長（飯田治男君） 熱海荘のところの水路につきましては先ほど全員協議会のときに御説明申し上げましたとおり、一カ所本年度実施するように予算化もしてございます。

それから、横の市民センターのところから左右両側に汐入川、平久里川への排水につきましては、汐入川のほうにつきましては昨年度ですか、国道のところまで裁判所のところまで概略一応済みしました。平久里川につきましてはほとんどが耕地でございますので、今実施いたしております中ダムの圃場整備の中で一応給排水、かんがい用水に並行して排水路を設けるように一応計画は進めているそうです。これはやはり田んぼの耕地整理と合わせてやらないとできない問題ですので、一応土地改良区のほうにもそういうふうな要望はいたしてございます。以上でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 急いでやる必要があるということでお聞きしているんですが、本年度中にそういうようなことができるのかどうか。まだ八幡のほうの鉄道線路の下の排水路これはこの前あそこは農家の協力によって市道に編入して舗装して側溝をつけるというふうなお話がありましたけれども、いつやられるのか。早くやらないとまた同じような被害が起るんではないですか。そういう点についてお聞きしたいと思ひます。

それから、中央排水路をみましてもヘドロが二、三尺おそろく高くたまっているのではないか。これはやっぱりしゅんせつすれば相当水の流れを早くすることができると思ひます。

それから、境川に通ずる南町のところですが、あそこらももっと底を掘り下げればもっと早く水が流れるということで被害をある程度小さくできると思ひますが、その点も合わせて御質問し



たいと思います。

○土木課長（飯田治男君） 本年度予算化してありますのでの字のところから汐入川の水路並びに八幡の道路の改良工事につきまして、ただいま設計のほうをまとめておりますので、設計ができ次第工事着手する予定でございます。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） 中央排水路のしゅんせつに対しましては毎年一定の計画をみまして清掃にあたっております。来年度もそのようにするつもりであります。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 了解。

○二一番（鈴木市蔵君） 実は、この補正予算に関連性がありますから一言聞かしてもらいたいと思いますが、実は十八日の日に消防署に行っただんですが、ちょうど今おいでになる課長さんが休みで会えなかったんですが、実は川名のどん川が貯水池になっておるんです。

ところが、上から流れてきた石、昔の尺八の石が山になっておるんですが、とても勤労奉仕では片づけられないんですが、これはその場合どういう考え方を持っておりますか、調査したことがありますか。市のほうで片づけてくれますか。この点を伺ってみたいと思います。

○交通課主幹（岩田 実君） 去る十五日の集中豪雨に際しまして、ほとんど川が非常にはんらんいたしましたして、付近の住家の方々にへん御迷惑をおかけしたということを伺っておりますが、その石がたぐさん川どめのところに集積しておるといことははじめからお聞きするわけでございまして、早速調査いたしましたして、その川どめのためにそこに集まったものかどうか、よく調査いたしま

して善処いたしたいと思っております。

○二一番（鈴木市蔵君） 川どめのために集まったわけではないんです。ちょうど川どめと、ほとんど川の間際に石が山になっておる。それを取っていただけるかどうか。とても勤労奉仕では取れませんからお願いしたんです。どうぞ。

○交通課主幹（岩田 実君） 私のほうで考えましたのは、あそこ川どめをいたしまして消防用の貯水として使用さしていただいておりますでございますが、原因がその川どめということではなくて、ほかの原因でもってそこに流れてきたということになりますと、消防だけでどうのこうのというようなわけには参りませんので土木課、その他関係機関と協議いたしまして、なるべく善処したい。このように考える次第でございます。

○三番（流山源次郎君） このたびの災害というべきものは、非常に館山始まって以来の大きな被害をみましたんですが、たまたま船形地区におきまして柳塚地区におきます、何十年来そういう経験のないという大きな床下浸水の災害が発生して、また堂の下地区においては鉄砲水のために海岸の漁船が横倒しになりました海に流される危険があって、その事故が発生したときに、市の対策本部というべきものが当然これはつくられておると思うんですがこれに対する連絡がいかなる方法をして連絡がつかなかった。こういうことで私ども地元でありまして、夜半の一時から朝方、夜があけるまで何とか急場をしのいでおったという状況でございますが、対策本部ができましたも当然館山市それから消防でございますか、この両者だけでは、この館山全域にわたった災害ではなかなか自分たちのもので事故は防げないと思うんですが、この



点に対しまして、やはり地域住民の協力そういったような両方の力相まつの対策がなければ、こういうものは事故を最小限に食いとめるということではできないと思うんですが、災害対策本部に今後こういう事故がございました場合には、どこに、どういう連絡をしたらスムーズに連絡がついて市との交流ができるかという一点と。

それから、先ほど全員協議会におきましての災害の説明においては、船形地区に今お話ししました漁船の流出に対する事故また市道の崖観音のぼり口の道路決壊によって船形の保育園等が崖くずれて相当の被害を受けたんだという問題等は何ら発表されておりませんが、そういったところのやはりかくれた大きな問題があるということに対しまして、先ほど全員協議会で発表されたものが市の中心的のものであって、あとのものはたいして注意はすべきものでないのかどうか。第二点。

それから、第三点といまして、今まで今度の大きな事故によって発生した床下浸水とかそういうものは、三〇〇ミリ近くの大きな災害のために偶然に起きたものであって、そういうことはたびたびないんだという考えのもとに、今後において原因究明というものが対策なり、また下水等のそういった問題を直すとか、改良するとかそういったところの考えがあるのかないのか。この三点をお聞きしたいと思います。

○交通課長（山口 一君） お答えいたします。

第一点の災害対策本部の設置並びにそれに対します連絡方法でございますが、先ほどの午前中の全員協議会の席上お話しいたしましたとおり、今回の災害に際しましては、十六日の午前一時十

五分に市の災害対策本部を設置しております。さらにその以前に九時四十分には警戒配備体制についております。

そのような関係で連絡がつかなかったというのはどういう関係か、私わかりませんが、十六日の本部設置の当時は消防署の舎屋をお借りいたしましたして二階に本部を設置いたしました。消防署の電話によって連絡を受けております。なお、役所のほうの関係も当直によりましての連絡を常時受けておりましたんですが、どういふ関係ですか、その原因はわかりませんが、今後そういうことのないように連絡体制を密にしていきたいと思っております。

それから、災害の状況でございますが、先ほど防災主管課のほうよりお話し申し上げましたのは概要でございますが、ただいまお話しのごさしました船形保育園裏の崖くずれ等についても報告を受けております。なお、これにつきましては土木主管課のほうと打ち合わせをいたしまして早急に改善をするという手配になっております。

船の災害につきましては、私ども情報を得ておりませんでございました。なお、災害状況につきましては私どもの情報キャッチの方法は、防災計画に基づきまして消防団の各部長さんが災害報告の報告責任者ということになっておりますので、十六日の日に私ども各部長さんにお願いたしましたして報告を受けておりますが申しわけなかったんですが、その点につきましては報告を受けておりませんのでおわび申し上げます。以上でございます。

○土木課長（飯田治男君） ただいまの船形保育園の上の道路につきましてでございますが、これは今度の補正の六百三万三千円の中に含めてございます。



それから、船の流れました、これは私流山さんから御連絡いただきまして現地見に行きまして、あそこにごさいます宇字溝が、あれは市のほうから地元へ支給したものでございまして、そのときの話では、地元であつた労働力は華仕してくださるということでございまして、あれを道路に付けていただくということで一応鉄砲水を解消することでございます。

〇三番（流山源次郎君） 結局、今度の柳塚地区におけるこの床下浸水というべきものに対して、これは市のどなたがおっしゃったかわかりませんが、住民の方のお話としては、柳塚地区の浸水があつたということで市のほうとしてもぜひお願いしたいというお話があつたときに、市のほうとしては床下浸水なんかというものは館山市全体のものであつて、柳塚一カ所の問題ではない。こういうようなことをおっしゃつたような方があるらしいことを住民の方はたいへんおこつております。

本来、柳塚という地区というのは、船形地区の地形というもののからみまゝの場合には、海岸線から相当高い高台になっておるわけでございます、八十歳、七十歳になる老人の方にお話を聞いてもこれに相当すべき雨量があつても床下浸水なんかした原因はないんだということになっておるところの問題がございまして、それも結局床までこないで床下に終つたということで、館山市全体が床下になっておるんだからということの話を聞いた後に、それでは柳塚あたりの問題は、先ほど鈴木議員さんが全員協議会でお話ししたとおり、船形の堂山の一面の造成地をつくつたために、そこから下水をつくるということの農協のお話してございましたが、山だけ農協つくつて、途中は館山市の下水道につな

いだから何にもならないんだ。いざ事故があつたらどうするんだということでは鈴木議員と一緒に農協に行きまして、農協のほうに強く申し入れてきたんですが、たまたまそれが原因いたしまして、今まで山林に木、草木があつたのがそういうものがないために、山に入つた水が結局緩和するものがないために、一時にどつと下水道を伝わって船形の川に落ちた。

結局、柳塚地区が災害になつたところの夜中の一時、二時の状況は、船形の堂山から中心にして柳塚に流れる田んぼ一帯が大きくな川と化しているんです。下水なんかあふれて水が流れておるといふんでなくて、田んぼ自体が広い海のような、湖のようになって、そういうことになって、田んぼから水が一般の家に流れ出して床下にずっと流れてきたという原因になって、そのことを考えてみると、結局下水がいいとかわるいというより、われわれ鈴木議員とともに心配して農協に申し入れました、つくるなら完全に海岸なり元までしっかりしたものをつくつてくれと要望したにもかかわらず、山だけのものをつくつて今までは下水につないでしまつたというようなことが大きな原因になっておるんです。

そのために、今まで八十年來だれも、年寄りも知らなかつた高台の柳塚地区の浸水が起きたんだということを考えてもらえば、たまたま床下浸水ぐらいは館山市どこにもある。柳塚だけでないんだというようなことをはかないと思うので、私この際申し述べておきたいと思ひます。

これで、私の質問を終わります。

〇一一番（山本昇君） 先ほど、全協で一応の被害の状況の概況が説明がありましたが、土木課長さんの説明の中にむろんそ



ったことも入っていると思いますが、長須賀地区になりますか、まご橋の近くの河川の土手がだいぶ決壊した。これも入っているのか。これはまたどこでやるのか。これが一つ。

それからさらに、これは主として市道、その他が中心になっておりますが、個人の屋敷、個人の住宅内、相当の崖なりあるいはへいなどが相当こわれたものがあると思いますが、そういったものが含めて入っておるのかどうか。その点御説明願いたいと思います。

それから、交通課長さんにお伺いいたしますが、今回はじめて災害対策本部がこうした積極的な活動をされました、一早く避難命令等を出しまして、おかげさんで人命には何らの被害がなかったということにつきましては、深く私も市民の一人といたしまして敬意を表する次第でございますが、確かに防災会議設置条例が設定されたのは昭和三十八年六月、またさらには本部設置の条例もそのときに定めておりますが、今回はじめて私はこうした本部が設置されて、そうして積極的に活動されたんじゃないか。本格的な活動は今回じゃないかと思いますが、その前に何かそうしたことになされたことがあるかどうか。この点一つ教えていただきたいと思います。

○土木課長（飯田治男君） 第一点のまご橋ぎわの道路の決壊でございますが、これは境川と二級河川に指定されておりますので、県が災害復旧事業で工事を実施することになっております。

それから、第二点の個人のというお話してございますが、これはあくまでも公共施設に対しての災害復旧ということでございます。個人のものは入っておりません。

○交通課長（山口 一君） 災害対策本部の過去における設置の状況でございますが、ただいまのお話のように防災会議設置条例が三十八年に制定されて、同年本部の条例も三十八年に制定されております。

その後、この対策本部が実際に設置されましたのは、昭和四十年九月十七日の台風二十四号、二十五号に際しましてこの本部が設置されております。その際の配備状況は第一次配備が指令されておりまして、助役以下二十名の職員が待機いたしました、当時自衛隊より四名の係員が派遣されて待機されていたという記録がございます。このときの活動は市内に対しましての広報活動をしたという記録がございます。現在まで記録にございます本部の設置は一回でございます。今回が二回目ということになります。

○一 一番（山本 昇君） ただいま土木課長さんの御説明によりまして、まご橋のところは県のあれだし、また個人の災害はこれに入らないということでございますが、そうしますと、今回のこの被害というものは一応ここに出ている被害より大きなものがまだたくさん出てくるんじゃないか。特に農作物に対します被害もこれは的確な把握でなくともっと出てくるのじゃないかとかように存する次第でございます。

しかしながら、何はともあれ、今回の災害の復旧といたしまして六百万余の今回の補正予算を計上いたしました、これでは私はまだまだもっと被害が出てきたときに足りないじゃないか。かように考えますが、これは当面の問題をここに計上したと思いますので、今後さらに日がたちまして的確な被害を掌握するとともに、もう少し増額されるのじゃないかということも考えて



ある次第ですが、その点のお見通しがあれば一つお示しいただきたい。

さらにまた、対策本部が設置されたのは昭和四十年の九月の台風のとくに一応設置した。しかしながら、そのときは大したあれもなかったので広報活動が中心であって今回はじめて積極的な活動したのだと、かような課長さんの御説明でございましたが、今回のこの災害本部を設置いたしましたして早く警戒体制に入り、さらにまたその後の情勢をみましてそうして本格的な災害対策本部を設けて、その事態を把握いたしましたしてそうして亀ヶ原地先の住民に一早く避難命令を出した。そのために大した被害も起こさずに人命の被害がなかったということは、その機敏なる処置に対しましては深く敬意を表します。

しかしながら、今後こうしたことが絶対ないということとはだれしもいえないことだろうと思うんです。そこで、私どもは先ほど全員協議会の席上におきまして、いろいろ議員各位からの意見がございまして、この点を十分考慮していただきまして、起こるべきして起きたという災害をひとつ起こしていただきたくない。あくまでこれは天災によるものならしかたがございませんけれども当局の対策あるいは施策の面におきまして欠点があったために災害が起きたということがあっては私にはならない。かように感ずる次第でございます。

したがって、今後この対策本部の設置につきましても、今回は適切に設置され、適切に運営されたとは私は認めます。今後もしやうしたことを早く設置されまして、そうして災害のできれば未然防止ということがお願いできればなお私はいいじゃないか。

さらにまた、その後におきますいろんな災害の起きないよう事前にひとつ手を打っていただきまして、防災のためにひとつ全市あげて市民に災害がないような方法を取っていただきたい。かように感ずる次第でございます。

特に、私は今回の対策本部を敷くと同時に市の職員を夜非常召集いたしましたして、そうしてこれが対策並びに災害救助にあたつたということと、その後におきます日曜日にもかかわりませず、浸水家屋等の消毒等も非常に手ぎわよくやったということに對しまして、深く感謝の意を表しまして今後ともさらにまたこうした心がけを伝えていただきたいということを切にお願い申し上げる次第でございます。以上で終了します。

〇一八番（安西益男君） 二点ほどお伺いしたいと思うわけでございます。

先ほど、災害対策本部の設置については、ちょっと要領を得ませんでしたのでちょっと聞かしていただきたいと思ひます。

ご存じのように、今回の災害ではテレビ等でも報道しておりまして、館山方面としてはまれにみる洪水であった。このようにはっきりいえると思うわけです。私どもがやはり被害地域から連絡を受けました時間は、もう十二時前であった。ほとんど十二時近くには最高なんです。洪水の極に達しておったのじゃないか、そういうことがうかがわれると思うわけでございます。

何にしても長老によれば三十数年来である。このようなお話もされておるわけです。そうした時点におきまして一時十五分ということでありますが、実際に活動したということになりますとはるかに遅れた時点において本部としての活動がされたのじゃないか。



いか。こういう面からしますならば、当然にも「と」も「と」早くから本格的なこの防災の本部を設置してその任に万全を期さなければならなかったのじゃないか。そのように痛感するものであります。なおまた前回にもやはりこういった体制について少し緩慢なそういう印象を受けております。

この点に、またさらには台風シーズンでもありますし、こういう災害の現状をとらえて今後の災害に対する対策、そういうものに対しては「と」も「と」機敏な取り組み方、そういうものを強く要望していきたいと思うわけです。

その活動のあり方につきましては、相当御苦労されたというところも、私も朝方まで市内まわっておりまして、その点承知してはおりますけれども、今申し上げましたように非常に体制の取り組み方が「と」も「と」機敏な方法を取れなかったものか。この点につきまして、今後の参考に対処しかたについてお伺いしたい。こう存する次第でございます。

それからもう一点は、先ほどやはりこれも全員協議会にお話しがありましたけれども、し尿の汲み取りこの点につきまして御説明ありましたように、床下、床上合わせまして約三百五十世帯あるいは掌握してないところはそれ以上相当ある。こういうことでございますが、全市にわたっての今度は災害でありまして、洪水という点も相当多くの家屋がそういった被害を受けておるわけです。したがって、汲み取り関係もまず部分的にというようなことは考えられない。このように存するわけでございます。

したがって、先ほど流山議員からも今度はそこばかりの被害ではないんだというような話もあったように、全市にわたって

公平な要望にこたえていただきたい。かように強く要望しましてその二点につきまして今後のあり方についてお考えをお聞かせ願いたいと思います。こう思います。

○交通課長（山口 一君） お答えいたします。

第一点の、災害対策本部の設置の遅れでございますが、私どもは設置が遅れたというふうな考え方はしておりません。というところは、大雨警報が発令と同時に防災主管課では警戒配備体制についておりまして、この警戒配備体制は御承知のように市の防災計画に基づく準備体制でございますが、この警戒配備体制の仕事の内容につきましては、災害対策本部の活動と何らかわりがなく活動しておったわけでございます。しかしながら、災害対策本部が設置される以前にすでに消防機関あるいは消防団、その他にこの活動もお願ひしております。

そのようなわけで、時間的には若干のずれはございますけれども、防災活動にその支障はなかったのじゃないかという判断はしております。しかしながら、結果的にみましました場合に、災害の最盛時より若干のずれがあったということは私も反省をしております。今度災害を受けられた方に対しては、まことに申しわけないいい方ではございますけれども、今回の災害非常にいい教訓となりましたので、今後災害対策につきましては遺憾のないよう善処して参りたい。このように考える次第でございます。

○衛生課長補佐（佐山市太郎君） ただいまおっしゃられました汲み取りの今後要望により方法をお聞きしたいということでございますが、確かに今回は重点主義にやりながらも全域に公平に行なうべく活動をいたしましたわけでございますが、いろいろ連絡の手違



いあるいはいろんなことがございまして、必ずしもそういうよう  
なふうにならなかつたことはお詫びいたします。

今後におきましては、課内協議はもちろん業者とも今後直ちに  
今後の対策を協議して善処したいと思ひます。

〇一八番（安西益男君） 災害対策の体制については落度がなかつ  
たというふうなお話してございますが、やはり本部というものが  
設置された以上は、本部長陣頭指揮あるいはさらに翌日、さらに  
その翌日ですか、副本部長のかにた村に行つたというふうな報告  
もございしますが、そのようにまず中心者が一早くそういう体制  
に取り組む姿勢が私は必要ではないか。こう感ずるわけです。

そのあり方について、支障がなかつたということでございま  
すけれども、やはりこれだけの大きな災害でございます。そうい  
つた点につきまして、その取り組み方についてももっと真剣に  
取り組んでいただきたいということを強く要望していきたいと思  
います。

それから、今の課長補佐からお話しがありましたように、当日  
は十六日でしたか、私の知つてゐる運転手さん、山中につとめてお  
る運転手さん二人休んでおつたということも承つております。ほ  
かの日と違ひまして、直接電話しても二、三日たつてからきたと  
いうことも直接聞いておりますので、十分今後そういう点万全  
を期していただきたいということを要望いたして終ります。

〇九番（辻田 実君） まず最初に、補正予算でございしまするけ  
ども、六百三万三千元というのが組まれておるわけでございま  
すけれども、これにつきましては今度の災害に伴うところの復旧費と  
してどの程度の復旧見込みができるのか。そこらへんについてい

ま少し説明を願ひたい。

このことは、先ほど公表されましたところの九月二十二日現在  
の災害状況報告というのがあるわけでございしまするけれども、こ  
の中に出されておりますところの公共土木施設の被害とか、その  
他公共施設の被害というものの、この被害額の金額だけ合せて  
も千五百万程度の被害があるということであるわけです。まずこ  
の一点との関連について額が三分の一にしか至つていない。だか  
らどの程度の復旧が、この被害額との関係においてどの程度復旧  
ができるのか。まずこれを聞きたい。

第二点目といたしましては、ここに書いてございますように、  
道路の決壊並びにがけくずれ、それから河川の護岸の決壊とかこ  
ういうのがあるわけです。ここでも、ていうところの道路の災害  
復旧費が百八十七万というものが補正が組まれておるわけでござ  
います。これは、この状況報告等をみますると、六十二カ所の道  
路の決壊とか崩壊というのがあるわけでございますけれども、この  
部分のここにあげられたところの六十二カ所に対してのはば応急  
手当てができておるのか。このうちの何%部分の復旧になるのか。  
残された部面があるならば、残された部面についてはどのような  
お考えを持っておるのか。

一般会計の中においても道路新設改良費があるわけでございま  
すから、それらでどの程度補えるのか。ここらへんの見通しにつ  
いて、これでもって全部今度の災害がある程度帳消しになり、災  
害が全部できるということは考えられませんが、一応これを  
承認するにあたって、以上のような点についてどの程度の応急処  
置を今度の予算においてしたかということを一応認識したいとい



う点について。二点お伺いしたい。

さらにもう一つは、これは災害対策本部のほうになるわけでございませうけれども、床上浸水が六十五世帯、床下浸水が二百五十四世帯というのが公表されております。さらには、水田の埋没が二ヘクタール、冠水が一〇ヘクタールということでございますけれども、いろいろただいまの御意見の中に相当館山市じゅうが床下浸水になっておるんじゃないかということがいわれたとか、いわれないということがあったわけでございますが、この床下浸水におきます家屋におきますところの二百五十四世帯というのは、どういうところを基準にして出されたものか。

それから、水田の冠水につきましては一〇ヘクタールということとでございますけれども、非常に数が少ないわけでございますけれども、私当日いろいろまわってみんですが、軒なみ冠水というのはあったようでございますが、どこからここで掌握するところの冠水地域、被害基準というものがあるのか。この点については床下浸水と、それから水田の冠水一〇ヘクタールの基準をどこにおいてどう把握されたのか。その点の経過について若干関連して御説明いたしたいというふうに思っていますので、以上三点について御質問いたしますのでよろしくお願いいたします。

○土木課長（飯田治男君） 一点、二点につきまして御説明申し上げます。

先ほど、全員協議会でお渡しいたしました資料は、これは市だけでではなくて、国、県の分も全部含まれておる件数でございます。館山市の場合の被害につきましては、地元の協力もございましたし、またほかにどんだん川の河川復旧とか、館山大橋の袖の護岸

両方合わせますと約八百万ぐらいでございます。こうしたものが一応国の災害復旧事業のほうに申請してございます。査定を終えまして額が決定いたしますれば、その時点で補正をお願いする。

この六百三万三千円につきましては、一応私どものほうで、私三日にわたりました現地全部すみからすみまで一応連絡のございましたところは、一応みてきてございます。一部地元でもう復旧されたところもございます。そういったものも合わせまして一応地元の労力ばかりでなく、やはり車なんか業者から借りたところもございまして、そういったところはある程度やはり地元にも全部まかすというわけにいきませんので、そうしたものを全部含めまして六百三万三千円、一応私どものほうに連絡のございました道路、河川につきましては全部復旧することになります。

ただ、このほかに橋梁といたしまして、真倉に流れております川にかかっております梅田橋、これが全部流れましたので、これは今年度橋梁補修として予算化されている中で一応直すことになっております。

あとは、こまごましたもので、私どものほうの直営で直されるものについてはこれからはおかれております。

○交通課長（山口 一君） 災害の床上、床下等の対象の把握の判断基準でございますが、先ほどもお話し申し上げましたが、この情報収集につきましては、災害時各住民の方々より直接電話等によりまして通報等による方法と、それから消防団の部長さん方がこの情報の収集の責任者となっておりますので、そちらの方よりの報告をいただいてこの対象を把握しております。なお、その他に各関係の町内会長さんに御連絡申し上げまして、町内での被災



者についての御調査をお願いしてございます。

以上のような方法によりまして被害地帯あるいは災害被災者の方々の把握をしております。なお、具体的には十七日に消毒いたしました、その際対策本部のほうより依頼いたしました消毒に従事いたしました職員の中から責任者の方をお願いいたしました、各世帯を全部みまわっていただきまして、床上あるいは床下等の判断をしております。

なお、御参考までに床上浸水と申します定義は、防災計画に定められておりますが、「住家の床より上に浸水したものと及び全壊半壊には該当しないが、土砂、竹木のたい積により一時的に居住することができないもの」ということになっておりまして、床上浸水とは「床上浸水に至らない程度に浸水したもの」というふうに規定されております。

〇九番（辻田 実君） ほぼ了解したわけでございますけれども、

一、二の点については大体の市の施設については復旧できるということでございますけれども、今後ここに報告されてない事項でもってかなりあるんじゃないかと思うけれども、それらについてはまた善処方お願いしたい。ほぼここで一応災害によるところの決壊それは大体においてこの予算についてまかなえるということでもっていいわけですね。

それから、二番目に、被害状況の把握について今度のこの予算を組む上について非常に重要なので関連して質問したいわけでございしますけれども、ただいまの課長の答弁の中をもって、二つの面から調査が行なわれておるということが指摘されたわけでございます。一つは消防、一つは町内会こういうことでございます。

けれども、それがどのような形でもって完全に掌握されたかということとは非常に重要だと思っております。

というのは、確かにある町内会、ある消防団の人については、うちのほうは床下まで浸水されたのだからということで非常にこまめに報告されて、それに対して対処なされておるところもあります。しかしながら、そういう制度を知らなかったというところもあるかもしれませんけれども、それをどうしていいかわからないところの町内会長また消防団そういうものもかなり多いと思うんです。そういうところについては報告しなかったために、かなりの床上浸水までしておっても報告がなくて、その見舞金をした対象外にはずれたということがかなりあるのじゃないか。道路の決壊、その他についてもかなり報告の状況によってあるのじゃないかと思っておりますが、これに対処するところの状況が今までのように対処されておったのか、聞きたいわけです。

特に、消防のほうに聞きたいわけでございますけれども、十七日の日にもうすでに各消防団の部長等に消防の被害届を出せということで連絡をなされておるようでございます。しかしながら、かなりの私に三、四人聞いたんですけれども、消防の連絡を受けたところの消防団の役員の人たちが、消防がそんな仕事をすることを知らなかったということ、災害の基準をどうしたらいいかということについて全く認識がなかった。今までこういうような災害調査というものはあんまりなかったようでございますの、そういうことを私はかなり聞いております。

これについて、定期的にしる、少なくともむこう五カ年間の間こういう災害が起きた場合に消防団の任務として、災害調査報告



をどのようにするか。ただいま防災何とかにあるように床上浸水というものは、上にかぶったものがどうだとか、それに準じないものについては床上浸水だという防災法の中に書いてあるということでございますが、そういうものを抜すいして、こういう場合にこういう報告をしろとか、そういうことに對して道路が破損されたり、各河川がはんらんした場合には、こういう形で報告しろというような形の講習会なり、伝達書類を配布してそれらに對するところの対応ができるような体制が、むしろ五カ年間の間にそういう連絡員等になされておるのかどうか。その点についてお伺いしたい。

そういうことがなされておらなければ、今後の問題としてそういう問題について十分に今回の災害を教訓としてやっていただきたい。これは消防の任務なのか、部落の町内会長の任務なのか。なお、部落に對してそうした災害対策委員とか、災害連絡委員というものを設置して、災害というものは忘れた頃にくるわけでございますから、ふだんの備えが必要なわけでございますから、そういうものを設置して普及をしておいて、いざ災害の場合に事後処理が完璧というわけにはいかないでしょうけれども、ほぼ完璧に近い状態にしていく必要があると思われすけれども、そうした混乱の状態を若干私は各所において聞いておりますので、そこらへんの考えを率直に述べていただきまして、今後の対策ということでしていただきたい。

そういう点について、経過が周知しておりませんと、ここに盛られたところの予算がどこを基準にして災害だということでもって、うちのほう災害一〇〇%できるといふふうに予算を組んでも

うちのほうまだできてないじゃないかということと苦情が出た場合。私たち議員としてもいろんな答弁なり、理解に苦しむ面がありますので、そこいらのものをきちんとして、この予算の承認に入っていきたいと思ひますので、今までやってきた範囲でけっこうでございますので、お答え願ひたいと思ひます。

○交通課長（山口 一君） 災害地域の把握につきましては先ほど申し上げましたように、防災計画の中で各消防団の各分団長さんがその連絡をしていたくように規定されております。その件につきましては、市に防災計画書というものがございまして、これが各消防団のほうにも配布してございまして、私のほうとしましては皆さん御承知のことと判断しております。

なお、これの報告をすべきかどうかという問題でございますがいわゆる市の機関ということで当然この任務に任じていただかなければならないというふうに私ども考えております。なお、今回の災害の場合には先ほどお話しいたしましたように、被災者の方々の直接の通報もございまして、それとただいまのお話しの各消防分団のほうよりの報告、それから町内会長よりの御連絡等によりまして被災地を把握しております。なお、その把握したものにつきましては対策本部の職員を派遣いたしまして現地確認をいたしております。

ただ、今お話しのように若干もしそのような問題がございましたらば、私どものほうとしまして今後さらに検討いたしまして善処をして参りたい。このように考えております。以上でございます。○土木課長（飯田治男君） 道路決壊、河川等の現場の把握でございますが、これは各部落の方たち、一般市民の方たち、それから



対策本部の交通課の防災係のほうに連絡があったもの、そういったものを全部私のほうでまとめまして、今度の場合は日曜日もし入りましたので、私と二、三の者、近くの者は出て参りまして、それで一応そういった個所も時間でできる範囲館山市内全域にわたって現地をみて参ったわけでございます。

十八日の日でございますが、私どものほうの職員を三班に分けてまして、全部市道については現地を調査しまして、その調査に基づいて今回の六百三万三千円という金額を出したわけでございます。

○交通課主幹（岩田 実君） 先ほど、消防団の幹部が被害の調査員としての認識を持っておたかどうかという御質問でございますが、先ほど交通課長からお答え申し上げましたとおり、地域防災計画書を各幹部に渡ししました際に、こういうような任務があるんだからというふうに説明いたしてあるわけでございますが、なんせ消防団の幹部も近頃交代がはげしいわけでございまして、一年あるいは二年で部長をやめるというふうな場合も、部もあるわけでございます。その都度やはり説明をしなければいけなかったわけでございますが、その点若干説明が十分でなかったという点があったと存じます。

なお、この被害調査というものは、確かに地域防災計画の中に部長、分団長がその任務があるんだということは明記してあるわけでございますが、実際問題といたしましてなかなか部長さん、分団長さんがそういったような書類を目を通すということは、なかなかできかねるわけでございまして、今後十分注意いたしましてなるべくそういったような点に、ただいま御指摘になられました

たように、そこのところだけ抜すいするなり、今後十分そのなようにいたしたい。かように感ずる次第でございます。

○九番（辻田 実君） 具体的に知りたいわけでございますけれども、ただいま議員には条例集を議員の交代時には必ず授受されて確認されておるわけですか。改正があった場合には、その都度さしかえをしておるわけでございますけれども、消防署の役員にはやっておるということでございますけれども、防災計画書、防災のそういう配置の指導については消防の場合には部長以上なのか、分団長以上なのか。その点まずはっきりしてもらいたいということが第一点。

二点については、今ある程度釈明はありましたけれども、それらの防災法なり防災計画書そういうものは、部長等がかわったときに当然引き継ぎ事項、辞令を交付するとともに、前の部長がやめたときにはそういう計画書を当然返納して、そうして新しい部長なり分団長にそれを引き継いで、そうしてはじめて辞令が交付される。こういう形が取られておるのかどうか。そこいらへんについてはかなり問題があるのじゃないか。特に、消防という人命、財産を預かる機関でございますから、そういう点について若干のゆるみがあるのじゃないかという点が懸念されるわけでございますけれども、その点についてどの範囲までそういうものがいっておるか。その場合に、点検事項になっておるのかどうか。この点をこの際聞いておきたいと思っておりますので、その点について。

○交通課主幹（岩田 実君） おっしゃるとおり、本来ならば申し継ぎ事項といたしまして、地域防災計画書あるいはその他の部の簿冊につきましても当然申し送りさすべきであります。ただ、



私のほうで現在までのところ一々そこまでタッチいたしまして、これこれ申し送り事項をやったかどうかというところまで確認しておらないのがいつわらざる現状でございます。

今後、今回の災害の調査というのも今回がはじめてのことでございますが、今後そういったような点もございますので、十分その点に注意いたしましては、きり確認するようにいたしたいと思います。

〇九番（辻田 実君） 大体了承いたしました。

一つだけ要望しておきたいんですけども、私も今回道路の決壊とか、いろんな浸水があったというように夜、夜中まで電話を受けたりやっておりましたが、実際のところ不勉強で実際にどこに連絡していいのかわからないで、消防団の団長がおれのところに来たとかこないというようにことをそっちで聞いていたりして、これは消防にあるんだということを、消防委員でありながら私もはじめて知ったという状況で、このPRが欠けておるような気がいたします。私も知ってる議員二、三聞きましたら、おれも知らなかったということでございました。一般市民は知らないということが多いと思いますので、近い所に災害が起きたときには報告なり、救助を依頼する場合にどこにどういうふうにするかということをお知らせしたい。忘れた頃に災害がくると思いますから、そのことをお願いいたしまして私の質問を終わります。

〇六番（栗原一雄君） 長須賀熊野神社裏の水路はらんというところでございますが、熊野神社裏に開発公社及び一般の業者による宅地造成が行なわれました。そういった意味で農地及び山林の宅

地造成というものは、転用する場合に十分行政指導していただきたい。

というのは、やはり抜本的な災害対策というものは、今までの一つの例を考えますに、田んぼがある程度ブルーの要素を持っておった。現在は田んぼが造成されるためにそこに残る余地がない。全部水路に入ってしまうということで、先般の九月十五日七月十五日二度にわたって大きな水害を受けております。また先般は自動車が流されるといふような結果をまねいております。

そういったことで、やはり将来起こり得る災害に対して検討しあるいは対処するそういったような館山市の開発、マスタープランというものが現在あるかどうか。お尋ねしたいと思っております。

〇企画課長（伊藤幸太郎君） 今のお話しの点でございますが、私どもで造成いたしました長須賀団地の問題、これも確かにそういった例がこの災害に起きたことは確認しております。でありますので、今までも当初設計いたしましたものより一、二手を加えてきておるわけでございます。なおかつ、こういったような災害時におきましては不十分のようであります。

今、一応この基本的な排水計画というものを現在検討中であります。検討し次第に何とか手を打ちたい。さように考えております。

〇六番（栗原一雄君） やはり抜本的な災害対策というものは、やはりき然たる行政指導にあるうかと思いますが、そういったことを要望して終わります。

〇二番（林 豊君） この補正の予算をみますと、復旧費の六百万円に對しまして、四百五十三万という七五%余というものが



自動車重量税と税ということでございます。

突発的に起きました不慮の災害に際しまして、今年は、去年にまたま新設されたところの四百九十万円という重量税をそのまゝその大部分をこの災害復旧費に振り向けたということについて質問をいたしたいんですけれども、将来もこういうふうな大きな災害があった場合には、たまたまそのときに重量税というふうな新たにできたところの税金というふうなものがあるから、こういうふうなものができた。こういうふうな手当てができたのだ。県の補助金はわずか百五十万円というふうなことで非常に少ないんですが、不吉なことを予想することは非常にわるいことですけれども、この後も、じゃあこの年度内にかかる災害がまた起きたら、その補正はどんなふうにして捻出をするんだというふうな心配も起くるわけで、こういう問題特にまた平久里川の河川の、二級河川の路肩がつくんだということでも市費である程度応急処置をしなければならぬというふうなことでもありますので、二級河川の持つところの意義であるとか、あるいはまたこの予算の配分等につきましても、将来もこういうふうな災害がまたまた起こるといふふうなことを考慮して、万全の予算が組めるように処置をする上からいっても、この予算の捻出方について、また将来どういふふうになさるお考えであるか。お伺いしたいと思えます。

○財政課長（長谷川広治君） 災害とその支出及びその財源に関する御質問のようでございます。

本年度財源的に苦慮いたしましたわけですが、たまたま自動車重量税の関係がおおよそ内定をみた段階でございますので、とりあえずこれを補正したわけでございます。

将来の計画といたしましては、ある程度積み立てのふうなものもいたしまして、徐々にそれを大きくし、不時の災害に充てたいくというふうなことを計画しなければならぬ。かように考えておりまして、来年度からは若干でもそういうことをやって参りたいというふうに考えております。

○二番（林 豊君） 今、財政課長の答弁で了承いたしましたけれども、こういうふうな問題もできることならば補助金等も多く取るような方法を講じてもらい、去年から新設されたところの重量税がたまたまあったから、こういうふうな処置ができたんだということでは非常に不安でございますので、お説のように予算処置ということを将来のために考えておかれて、災害復旧費というふうなものも常々考えて積み立てておかれるというふうなことで万全な対策を講じていただくということを要望いたしまして質問を終わります。

○二〇番（君塚喜三君） 私、六番議員の質問に関連をして一言お尋ねをいたしたいわけですが、防災に關しての将来に対するマスタープランがあるのかどうか。こういう質問があったわけなんですが、この点に關連をいたす問題として、私常々感じておることなんですが、伊藤企画課長は現在市の開発公社の常任理事である。こういう關係なんですね。

私は、企画課というところは、館山市の十五年、二十年先がこうあるべきであるというマスタープランをこしらえていくんだ。これが一番大きな問題であろうと思ひます。ところが、その課長が市の開発公社の常任理事である。いいですか、常任でないならまだいいんですが、常任理事である。これをもってこのような



マスタープランというようなことができるかどうか。私この点に對して疑念を持つわけなんです。この点に對する御見解を伺いた  
い。

○市長（本間 譲君） 企画課長が開発公社の常任理事というのはい  
あまりおもしろくない。市の計画を立てべきだということござ  
います。開発公社もやはり市の計画によってこれは進めてお  
るわけございまして、別個独立してあるような形ですけれども、  
やはり企画課長が兼務したほうが非常によろしいと、そういうこ  
とでやっております。それがため、ほかに支障をきたすような  
ことは私は考えられないと思ひまして、そういうふうな配置でや  
っておりますでございます。よろしくお願ひします。

○二〇番（君塚喜三君） 市長さんのお答えては、何かおもしろく  
ないとおっしゃるけれども、私、なにもおもしろくないといつた  
覚えはございません。しかも独立した機関ではないのだ。こうい  
うことをおっしゃるんですが、ときによつては市の開発公社がや  
つたんだから市のほうは知りません。

たとえば、谷藤原の運動公園にしても、あれは市の開発公社が  
やっているんだ。むこうがやっておることなんだから、市会にか  
けなくてもいいんだというようにまでおっしゃっておる。

ところが、今の御答弁は独立した機関ではないんだ。だから両  
方かねてもかまわないのである。私らは、常任理事はあつち行  
つて土地を買います。こつちに行つて土地を物色します。こうい  
うことにはとんだがついやされておるような状況にあるやに見受け  
ておるわけなんです。そんなことでもつて、館山市の十五年、二  
十年先のあるべき姿をここで計画していくなんていうことが果し

てできるかどうか。このことについてお尋ねしたわけなんです。  
なにもおもしろくないとか、何とかいつた覚えはございません。

（笑聲） もう一度御答弁をお願いします。

○市長（本間 譲君） いろいろなにかいい過ぎたといつておこ  
れましたけれども、（笑聲） そんなわるい意味でいつたわけでは  
ないです。責任はどのこのおっしゃるけれども、市長であつ  
て、市長が開発公社の理事長こういふわけで、私が何も別にけ  
るわけでもないし、にげられるわけでもない。私の責任において  
これは全市民のしあわせのためにやっておりますから、別に  
あなたのおっしゃるような懸念はございませんから御了承願いま  
す。

○二〇番（君塚喜三君） 市長さんは、確かに開発公社の理事長で  
あつて、ともに市長さんである。この前も市長の責任においてや  
らしたのだからというふうな御答弁なされた。予算執行にあたつ  
て市長の責任でないものがありますか。すべて市長さんの責任で  
すよ。予算執行について、それは当然市長さんの責任あることは  
改めておっしゃらずとも十分心得ておるつもりであります。

ただ、今いったとおり、私はその常任理事といつたようなこと  
でほかのことを企画課という課というのは非常に大事なものであ  
る。それにもかかわらず、その一番の長たるものが市のほかの市  
の開発公社の常任理事をつとめておるようなことで、果して六番  
議員のおっしゃつたようなマスタープランなんていわれたつてあ  
りっこない。私はそう思ひわけなんです。ですから、そんなこと  
でいいのかということで私は質問を申し上げておるわけなんです。  
市長さん、そういうことはありませんというところでございます



ので、これで打ち切ります。

〇 一九番（島野茂樹郎君）

防災計画についてお聞きしておきたい

んですが、今回集中豪雨、それこそ三十年來はじめてだというふうな、いわゆる三〇〇ミリを越す雨が降った。それによって館山市の各地に被害が出た。これは非常に天の与えた機会だというふうにも考えられるわけですが、ただ、三〇〇ミリ以上の雨が集中的に降るといっても今まで冠水したところは必ず冠水をする。がけくずれ等はこれは若干通りかもしれないけれども、床下あるいは床上浸水するところは必ずそういうふうになるということが実証されたわけです。その中には三〇〇ミリでなくともそういうふうになるというところも私はあると思うんです。

たとえ、さっき六番議員がいいましたけれども、熊野神社裏のあの道は、ちょっと雨が降るともうあそこははけきれないで道路のほうに水が通るということ、これは年に二回か三回か、毎年あそこは起こると思っております。

そうなりますと、今回の災害によりまして、取り除ける原因というのがあるような気がするわけですね。災害になったところどこがどうで、雨が降ったということが一番大きな原因ですけれども、しかしその雨に対してですね、対処しなければならぬ。これだけ何かすれば、処置をすれば災害を減らすことができるであらうというふうな、こういうような個所が何カ所あるんじゃないかというふうに私は考えます。

したがって、この防災の主管課においては、そういう原因の究明あるいは対策、ここをこう直す。そうしたら災害はこれだけ減らすことができる。そういうようなことを研究をしていたらいい

そうしてその対策を早急にやっていたら方策を講じていただけないだらうかということが一つです。

熊野神社のあそこは、今までは田が非常に広がった。ですから小さな川がいっぱいになる。あとは広い田んぼを流れた水が通っていた。だから決して人に被害を及ぼすというようなことはなかったわけですが、その川をせきとめてしまったと同じような小さな穴にしてしまった。トンネルにしてしまった。これでははけきれないのは当然なんです。

地元の人は、あの道をつくったときからそういうことはいってあったわけです。これはもうちょっと雨が降ればあそこは田はいっぱいになくて常に流れていたわけですから、それをみていればこんな小さなものでははけきれないのは当然だということはいっていたわけなんです。これはその当時に土木課なりあるいは市のほうにもそういう話はいっていたと思いますけれども、あんな形でできてしまった。おそらく毎年あそこは二回や三回の冠水道路の上を水が越すということは必ず私はあるというふうに思っています。事実もう今年も集中豪雨含めて二回なり、三回なりあるわけですから、あそこで今回人命が非常に幸運にも失われずに済みましたが、もしあそこで流れた自動車で人命が失われていたとするならば、これはたいへんな問題に発展したような気がいたします。

そういう意味から、そのほかにも直せば災害が減るであろうという個所というのがまだ多々あると思いますから、早急に手をつけていただいて、今回出てきておる予算は応急処置的な復旧だけの予算ですが、少なくとも来年度の当初にはそういう予算



を含めて提案をぜひともお願いをしたい。このことを要望いたして終ります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略直ちに採決することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。

### 採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

### 議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第六十七号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

#### （書記朗読）

議案第六十七号 館山市教育委員会委員の任命について

### 議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 議案の説明を求めます。

（市長本間 謙君登壇）

○市長（本間 謙君） 議案第六十七号の教育委員会委員任命につ

きまして推薦を申し上げたいと存じます。

本月三十日をもって、教育委員の吉田政弘君、高木 正君が任期満了になるわけでございまして、この後任を御推薦申し上げるわけでございますが、吉田政弘君は補欠で選任されておりまして一年半ぐらい就任しておられたわけでございますが、きわめて人格も高いし、りっぱな人でありますので、再度吉田政弘君を御推薦申し上げたいと存じます。

なおまた、高木教育長は、このたび退任をすることになりまして、その後任としましては、現在北条小学校長の安田豊作君を教育長にお願いをいたしたいと存じますが、安田豊作君は皆さんも御承知のように県下の教育界においても非常に高い地位におられる有名な方でございますので、教育長としては最も適任であろうかと存じまして御推薦をいたしたいと思っておりますが、この二名の方々の選任につきましてぜひ議員の方々の満場で御承認をたまわりますようお願い申し上げます。以上でございます。

○議長（吉田勇治郎君） 本案に対する説明は終わりました。

御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

### 委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会の付託を省略することに御異議ございませんか。――御異議なしと認めます。

### 討

### 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。



〇一〇番（渡辺軍治郎君） 私は、教育委員の任命個々については問題にはいたないんですが、教育委員会に対する不信があるわけです。というのは、私が議員になってはじめて取り上げました学校の教育有線放送の問題で、館山市が今のような財政状態の中で急いで全国に先がけてやる問題かどうかということで批判をしました。それ以来この問題については批判的な立場に立っているわけです。

このことは、結局教育委員会としてそういう問題を取り上げたわけだと思ふんですが、まだこれはその効果がどうかということではこれからの問題であります。館山市のような財政状態の市はいわゆる文部省のやろうとしておるようなことを、いわゆる先取りしてモデルケースのように全国に先がけてやる必要性があるかどうかということで教育委員会に対する不信の考えを持っておったわけです。

そのことは、ここに改選になる教育委員の方は、当然それに参画しておったと思うんで、この人に対する推薦には反対したいと思ひます。

それから新しい教育委員になる方は、これはまだ教育委員としての実績を私知らないし、今後の問題であるうと思ひますのでこれに対しては問題はありません。

合わせて、日本共産党としては、教育委員は公選にすべきだということをたえず主張しております。これは国政の問題でありまして、ここでは問題になりませんが、以上反対する理由を申し上げます。

〇九番（辻田 実君） まず最初に、吉田政弘委員につきましては

教育委員になりましたから日も浅いし、いろいろと館山の教育行政に努力されておると思ひますので、今これをどうこうということはございませんので、私は吉田政弘委員につきましては、市長の要望もあることでございますので、継続して再任されることについては支障がございません。

次に、新しく任命をされようとしておるところの安田豊作先生については、以上二点から任命について承認、同意しかねますので反対の意見を述べたいと思ひます。

まず第一に、現職の学校の校長を途中において重大なところの理由なくして、わるくいえば引き抜く、退職させて行政機関に持ってくるということは、今後の教育の中において及ぼすところの影響は決してよくなると思ひません。したがって、途中においてこれを採用するということにつきましては、私は同意できません。

このことは、しかしながら不慮の事故とか、緊急の事故があったりやむを得ず途中から採用するということは、私はあり得ることだし、そういう場合には私はあえてそこまではこばみませんけれども、しかし今回の場合に、現職の教育長が四年前に任命されるときから今日ここでもって改選されなければならないということは、すでに任命の時点から今日までわかつていたはずでございます。その間に十分に後任の人選の問題については私は余裕があったと思ひます。

特に、安田先生を教育長にむかえることについては、安田校長そのものについては私は人格、識見から問題ないと思ひますけれども、そういう意図が市長自身の中にそういう要望が強力にある



ならば、この三月当然北条小学校の校長を退職していただきまして、猶予期間をもって今日任命するという方法もあり得たはずでございます。そういうことがなされておられないし、そういうような状況はむしろ世間一般のうわさ、政治的な不明瞭な話し合いそういうものがいろいろと流布されている中においてときが経過して今日こういうふうに至った。

私は、現職の校長特に九月のちようどときなかばにして、特に北条小学校の場合に新しく校舎が建築され、昨年一千三百数十万円の近代化施設費を行ない、続いて本年も千三百万の近代化といふことでもって、館山市のほかの全部の学校の備品購入費の数倍という経費を特例としてつぎ込んで、そうして北条教育の完成をめざそうとして努力している途中に、明らかに今回の場合には館山市の事情によって現職の校長を引き抜くという形がいかなる理由をつけてもそのそしりをまぬがれない。時期を適しない。

こういう観念からおきまして、現職の校長の採用につきましては、まず第一点として承認できかねる理由でございます。

第二番目には、ただいまも触れましたように、今日の教育長、安田委員を教育長として任命するにあたりましては、あまりにもここ一年間におきますところの教育界をはじめ一般市民の世論の中に大きな誤解と不明瞭があったと思われるわけでございます。

その点につきましては、ここにあげませんけれども、その結果が私はいいい方向に出ればよかったのでございますけれども、しかしながら、そうしたところの次期教育長をめぐるところの世論の中でもいろいろな取り上げられた一面のわるい面がここに出てきておるといふふうに考えられるわけでございます。

そうした問題については、先ほど全員協議会の中においていろいろと討議したわけでございますけれども、現段階において政治的な判断、市長としての政治的判断においてまだ十分なものであるといふふうに私は思えないのでございます。

今回の任命にあたりまして、基本的には市の自主性、そういう現職の校長をやめさしてどうしても館山に取らなければならないという確固たる根拠、そういうものは出ておられない。むしろ私にいわせれば現職の教育長の処遇にからんで小学校の校長を市の行政機関に招く、招聘するというような、こういう結果が出てきておる。これは結果として今回の推薦以降に行なわれればいいのでございますけれども、二十二日の地方新聞に出ておりますようにそのうわさというものは、報道機関においても公然と報道されておるところでもあるし、こういうことが市の行政の都合によって学校出身であるところの校長を簡単に動かすということについては、私は非常に問題がある。

そういう面について、今回の任命については結果的な立場から私個人の議員としてやはり自主的にどうしても安田校長を北条小学校をやめてもらへても、館山市の教育の全体のために教育長として招聘しなければならぬのだという自信が持てませんし、そういうようなところの理解というものが今までの説明、先ほどの全員協議会の中におきますところの市長の説明の中においては私自身としては理解できないわけでございます。そういう理解できない中において大きなこういうことをすることについては問題があると思います。

私は、非常に残念なことであるわけでございますけれども、教育



長の後任が若干遅れても、このような問題を解決されて、やはり教育の問題だけに純粹にきめられることを願うわけでございます。

過去、県下におきましても多くの市町村におきまして教育長の任命が若干遅れて、ほかの人が兼務代行しながら人材を得て、選出しているケースという場合非常に多いわけでございます。一つや二つの例ではなくてかなりあるわけでございますから、これらの点を慎重を期して行なうべきでありまして、現時点におきましますところの同意は、以上二点の観点に立ちまして、新教育委員の任命につきましては、同意につきましては、同意しかねますのでその点を意見として披露いたしまして、私の意見にかえます。

〇一三番（五十嵐 昇君） ただいま九番議員からの御発言でございますけれども、私は高木教育長の御退任についてはただいままで任期中、非常に忠実に館山市の教育行政をつかさどって来た、またいろいろの点について全国に先がけての見識のある実績を示されたということでございまして、心から敬意と御苦労に対して感謝を申し上げる次第でございます。しかしながら、本人の自由意志によりまして今回の退任ということになりますれば、これもまたいたしかたないと存じまして、おしいことではありますけれども、高木先生の御退任については賛意を表する次第でございます。

次に、安田豊作先生の登用でございますけれども、有線放送の実施、実績等バトンをタッチするという意味から、やはりその道にはその道に通じたあるいは館山市教育行政の全面的な見地から公平無私な、やはりやり手であるところの安田豊作先生を登用することも、これは任期をかばってであるという点はございまするけれども、これはいたしかたないことであろうかと存ずるのでござい

ます。

やはり、館山市全体の教育の前途を見渡しあるいは現実を注視していただいております方を登用することが最も大事なことであろうと存じますし、館山市教育の前途を見守りますときに、そういうこともこれはぜひ考えなければならぬことであるとするならば任期をかばってはいけませんけれども、安田先生の御登用もこれは当然そうあってしかるべきだ。こう考えますので、私といたしましてはもう手をあげて安田豊作先生の登用について賛意を表したい。こう存ずるものでございます。以上。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。

## 採 決

〇議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案に対する採決は起立により一名ずつ行ないます。

吉田政弘君を教育委員任命について同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

〇議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって同意することに決しました。

次に、安田豊作君を教育委員任命について同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

〇議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって同意することに決しま



した。

閉

会 午後三時五分閉会

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本定例会に付議されました案件はすべて議了いたしました。よ  
つて会議規則第七条の規定により本日をもって第三回市議会定例  
会を閉会いたしますことに御異議ございませんか。――御異議な  
しと認めます。

よつて、本定例会はこれにて閉会することに決しました。

○本日の会議に付した事件

一、認定第一号乃至認定第七号

二、議案第六十六号、議案第六十七号

地方自治法第二百二十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長

吉田勇治郎

館山市議会議員

長田森次

館山市議会議員

若原喜三



